[PRESS RELEASE]

平成 26 年 3 月 27 日
株式会社 ユニテックス

4K映像データの撮影現場に革命を呼ぶポータブルLTO映像アーカイブシステムを発表
～世界最軽量*5kg の 新 HandyLT　HLT560M～

株式会社ユニテックス（本社：東京都町田市、代表取締役社長：土田義徳）は、LTO-6 ドライブを搭載し SRMemory、SxS、P2 等のメモリカードを一度の操作で 6 枚連続してアーカイブする小型・世界最軽量 5kg の「**ポータブル LTO 映像アーカイブシステム HandyLT HLT560M**」を発表します。

いまTV放送技術は、これまでの最高画質フルハイビジョンから4K映像データへと高精細画質への移行が進んでおります。たとえば、フルハイビジョンがおよそ横 2000×縦 1000 に対し 4K が同 4000×2000 という画素数ですので、4K 映像データは益々大容量となります。これをデータ容量で表すと、フルハイビジョンの4倍、2時間映像の場合、約500GB(バイト)必要な計算になります。このように映像データの大容量化が進む撮影現場では、高価なメモリカードの効率運用が求められており、撮影した映像データを現場近くのホテルまたはオフィスでメモリカードから内蔵または外付け HDD へ保存した後、メモリカードを空にして再利用しているケースが多くなっております。しかし、撮影現場でのデータ保存はメモリカード 1 枚 1 枚の処理工数が大きく現場担当者にとって大きな負担になっております。

そこでこのたび弊社では、撮影現場やニア・セットでの 4K 映像データのアーカイブに最適な、サイズ 23.6cm×10.8cm×26.4cm の小型、世界最軽量 5kg の CPU 内蔵、LTO-6 ドライブを搭載した「**ポータブル LTO 映像アーカイブシステム HandyLT　HLT560M**」を開発いたしました。**HLT560M** はメモリカードリーダ接続用 **USB3.0** ポートが **6** 個、**USB2.0** が **4** 個の合計 **10** 個、**1Gb Ethernet** が **1** 個のインタフェースを搭載しており、**Wi-Fi** 接続にてタブレットやスマートフォンによる操作も可能です。

「**HandyLT HLT560M**」は、標準実装の **UNITEX TapeViewLT アーカイブソフトウェア**により、SRMemory、SxS、P2 等のメモリカードを一度の操作で 6 枚連続して LTFS フォーマットや tar フォーマットにてアーカイブしますのでアーカイブ操作に専念することなく貴重な時間の創出が可能となります。またLTOテープと外付けHDDへ同時にアーカイブが可能です。アーカイブ後はアーカイブデータを再度読み込みベリ ファイを実行することにより元の記録メディアデータとの完全一致を確認します。LTO テープがもつ搬送時の衝撃に強いという特性により、映像データの喪失リスクの低減が図れます。

さらに、撮影現場への搬送に便利な HandyLT と UPS、モニタ、キーボード、マウスの一式が収納できる HandyLT 専用キャリングケースも用意いたしました。

＊2014 年 2 月、当社調べ

【特長】

メモリカードからLTOテープへアーカイブする可搬型 LTO 映像アーカイブシステム

・サイズ 23.6cm×10.8cm×26.4cm の小型、世界最軽量 5kg
・CPU 内蔵、512GB SSD を 1 台（最大 4 台 2TB）搭載
・USB3.0 を 6 ポート、USB2.0 を 4 ポート、1Gb Ethernet を1ポート搭載
・USB ポートにより SRMemory、SxS、P2 等のメモリカードリーダを接続
・Wi-Fi 接続でお手持ちのタブレットやスマートフォンから簡単操作
・撮影現場への搬送に便利な HandyLT 専用キャリングケースを用意
・6 枚のメモリカードを一度の操作で一括アーカイブ
・LTFS フォーマットおよび tar フォーマットによるアーカイブ
・LTO テープと外付け HDD への同時アーカイブ
・元の記録メディアデータと LTO アーカイブデータの完全一致を確認
・アーカイブ管理情報により検索・再生が容易
・AVID Media Composer、Adobe Premiere Pro、Apple Final Cut 等での映像確認や編集、必要な映像データの切り出しが可能

【導入のメリット】

■SRMemory、SxS、P2 等、高価なメモリカードの利用効率の向上
■一度の操作で一括アーカイブ、操作に専念することなく貴重な時間の創出が可能
■ベリファイ機能によりアーカイブ映像データと元の記録メディアデータの完全一致を確認
■アーカイブ情報により検索・再生が容易
■映像データ搬送時の撮影素材喪失リスクの低減

【製品概要】

型名		HandyLT HLT560M
ソフトウェア		UNITEX TapeViewLT アーカイブソフトウェア
RAM		4GB
内部ストレージ		512GB SSD × 1 台(最大 4 台 2TB まで搭載可能)
ドライブタイプ		LTO Ultrium6
LTO メディア	R/W	Ultrium6、Ultrium5
	R	Ultrium4
ファイルシステム		LTFSフォーマット Tarフォーマット
接続インタフェース		USB3.0 ×6 個、 USB2.0 ×4 個 1Gb Ethernet ×1 個 SAS ×1 個、 eSATA ×1 個
ユーザインタフェース		モニタ・キーボード・マウス Wi-Fi 接続タブレット・スマートフォン
電源		AC100V～240V±10% 50/60Hz
消費電力		最大 200W
外形寸法		236(W) × 264(D) × 108(H)
質量		5kg
オプション		内部ストレージ:最大 4 台 2TB まで 専用キャリングケース
発売日予定		2014 年 4 月 7 日

【標準価格と目標販売数】

標準価格　　HandyLT HLT560M:　200 万円 ～

目標販売数　　1,000 台

【本件に関するお問い合わせ】

(一般)　　株式会社 ユニテックス 営業本部
Tel.(042)710-4630　E-mail. sales@unitex.co.jp
(報道関係)　　株式会社 ユニテックス プレス担当
Tel.(042)710-4630　E-mail. news@unitex.co.jp

【当社の会社概要】

本社　　東京都町田市中町 2-2-4 ユニテックスビル
代表者　　代表取締役社長 土田 義徳
資本金　　9,000 万円
設立　　1990 年
事業内容　　金融システムソリューションの開発・販売
メインフレーム・テープ＆ストレージの開発・販売
コンピュータストレージの開発・販売
ソフトウェア開発
URL　　http://www.unitex.co.jp